

## 【解 答】

### 腸間膜静脈硬化症

#### 解説：

下腹部痛を主訴に来院され、他覚的に右下腹部に圧痛を認める。血液検査でCRPがやや上昇しているが、発熱はなく反跳痛はともなわず、便の色調にも変化がない。撮像したCTでは、上行結腸から横行結腸右半にかけて浮腫状の壁肥厚と周囲の腸間膜静脈の石灰化を認める。以上からは、腸間膜静脈硬化症（mesenteric phlebosclerosis）が考えられる。

腸間膜静脈硬化症は、1991年に「慢性に経過した右側狭窄型虚血性大腸炎」として初めて報告され<sup>1)</sup>、1993年に静脈硬化に起因した灌流異常による虚血性大腸病変として提唱された。2000年にYaoらが「静脈硬化性大腸炎」と命名した後<sup>2)</sup>、病理組織学的には炎症所見ではなく変性を主体とした病変であることから、2003年にIwashitaらにより「腸間膜静脈硬化症」として、疾患概念として確立された<sup>3)</sup>。本邦での有病率は人口10万人あたり0.10とまれであり、平均年齢は61.8歳、男女比は約2:3とやや女性に多いとされる<sup>4)</sup>。また特発性門脈圧亢進症を含む肝機能障害や高血圧症、自己免疫性疾患に併発しやすいことも報告されている。

以前はアジア人を中心とした報告が多く、成因

が不明とされていたが、近年は漢方薬との関与が指摘されるようになった。Shimizuら<sup>5)</sup>による本邦全国調査では、腸間膜静脈硬化症の患者222名のうち、76.1%（169名）で漢方薬の服薬歴があり、このうち87.0%（147名）が診断時も服用していたことが報告されている。さらに、この中の81.0%（119名）は山梔子（サンシシ）を含有した漢方薬の服薬歴があることが報告されている。症状は、右側を中心とした腹痛や不快感、下痢、便秘、腹部膨満感などであり、イレウスを契機に診断されることもあるが、無症状例も少なくなく、内視鏡検査により偶発的に発見されることもある。治療は、被疑薬の中止により症状の改善が得られることが多いが、進行例においては外科的切除を要することもある。

画像所見は、腹部X線写真やCTにて、右側結腸を中心に大腸壁あるいは上腸間膜静脈に沿った石灰化像を示す。内視鏡的には、右半結腸を中心に、青銅色の粘膜を呈し、黒色調に透見される静脈像や縦走方向のびらんや潰瘍が散在し、浮腫や狭窄をとまうことがある。病理組織学的には静脈壁の著明な線維性肥厚と石灰化、粘膜固有層における著明な膠原線維の血管周囲沈着、粘膜下層の高度線維化などが認められる。

本症例は、CT所見で腸間膜静脈硬化症を考え、山梔子を含有する黄色解毒湯、ならびに苓甘姜味辛夏仁湯を休薬した。1週間後に下部消化管内視鏡検査を行い、上行結腸から横行結腸にかけて青銅状の粘膜と浮腫、びらんを認め、腸間膜静脈硬

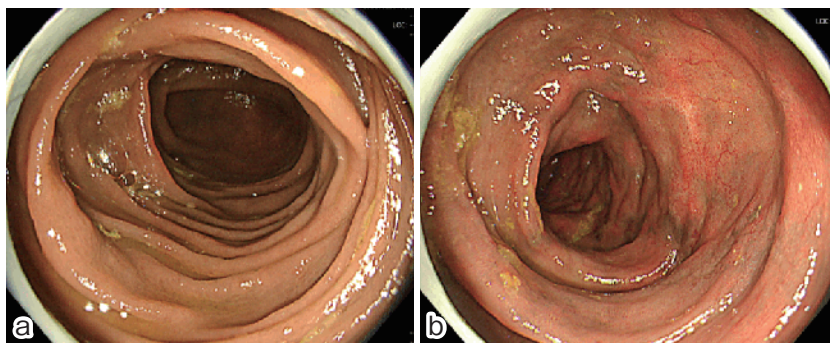


Figure 2. 来院1週間後の下部消化管内視鏡検査所見：上行結腸から横行結腸にかけての粘膜の色調は青銅状であり、浮腫をとまない、一部で発赤やびらんを認めた。

化症に矛盾しないと判断した (Figure 2). 粘膜内には淡好酸性の無構造物が沈着しており, Masson-Trichrome 染色にて青色に染色されたため, 膠原線維と考えられた. その後, 症状の改善が得られている.

参考文献:

- 1) 小山 登, 小山 洋, 花島得三, 他: 慢性的経過を呈した右側狭窄型虚血性大腸炎の1例. 胃と腸 26; 455-460: 1991
- 2) Yao T, Iwashita A, Hoashi T, et al: Phlebosclerotic colitis: value of radiography in diagnosis—report of three cases. Radiology 214; 188-192: 2000
- 3) Iwashita A, Yao T, Schlemper RJ, et al: Mesenteric phlebosclerosis: a new disease entity causing ischemic colitis. Dis Colon Rectum 46; 209-220: 2003

- 4) 吉永繁高, 中村和彦, 原田直彦, 他: 特発性腸間膜静脈硬化症の臨床像. 胃と腸 44; 163-169: 2009
- 5) Shimizu S, Kobayashi T, Tomioka H, et al: Involvement of herbal medicine as a cause of mesenteric phlebosclerosis: results from a large-scale nationwide survey. J Gastroenterol 52; 308-314: 2017

本論文内容に関連する著者の利益相反  
: なし

出題: 福原誠一郎 (慶應義塾大学医学部  
内視鏡センター/  
独立行政法人国立病院機構  
東京医療センター)  
緒方 晴彦 (慶應義塾大学医学部  
内視鏡センター)